

「信州職人学校／伝統大工コース」の紹介

—地域の伝統を未来につなぐ中堅大工の育成をめざして—

職業能力開発総合大学校東京校 秋山 恒夫

1 はじめに

長野県内の建設職人組合を束ねる「長野県建設労連」では、先人たちが蓄積して来た伝統大工の技や知恵を引継ぎ、未来へと発展させて行くために、中堅大工を対象とした「信州職人学校／伝統大工コース」を2009年より開講した。

このコースは、信州の建築の歴史と風土を踏まえ、伝統的な大工技量の向上を図るとともに、新たな仕事を開拓しうる能力の育成をめざすものである。

また、この学校は、2010年から始まった「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」(国交省+林野庁共同プロジェクト)の全国10拠点の一つに選ばれ、国の支援が開始された。

筆者は、コーディネータとして準備段階から協力して来たことから、立ち上げの背景、コースの構想、実施内容、育成拠点事業等について概要を報告する。



2 立ち上げの背景と経緯

「長野県建設労連」(長野県建設労働組合連合会)は、県下19の建設労働組合を束ね、組合員約2万人

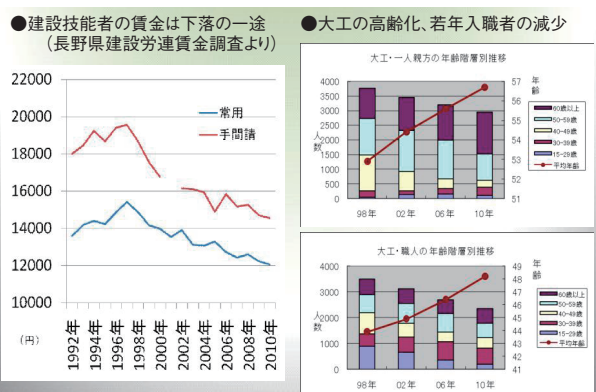


図1 長野県内の大工技能者の状況

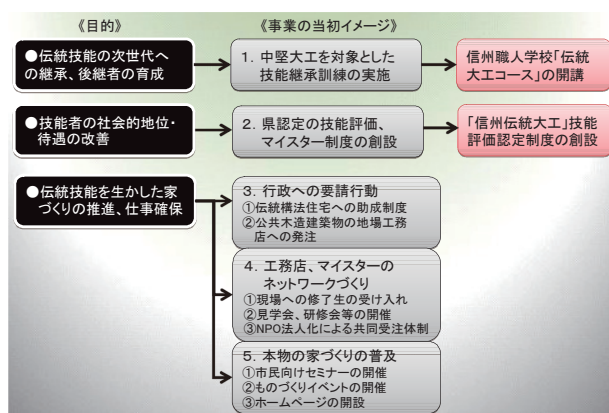
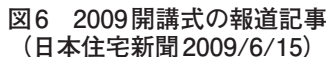
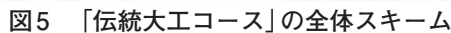


図2 「信州伝統建築技能継承事業」のフレーム

●制度	・認定訓練校等の補助を受けない制度外の学校(フリースクール) ・独自財源による運営(建設技能振興事業助成金を活用) ・実技授業は長野県の「スキルアップ講座」として実施
●コース	・「基礎(2級)コース」(+「入門講座」)、「応用(1級)コース」 ・2009年度基礎コースから開始、2010年度応用コースを開講。(交互に開講) ・将来的には、大工以外の職種も視野に入れる
●対象	・基礎コース: 大工経験3年以上、又は大工技能検定2級以上の組合員 ・応用コース: 信州伝統大工2級取得、又は大工技能検定1級以上、又は大工経験10年以上の組合員
●会場	・実技: 「松本技術専門学校」の施設の一部を借用 ・学科: 同上、及び建労会館大会議室
●期間	・毎週土曜、半年間。計24~25日間、168~175時間 ・受講料: 48,000円(各コース)
●育成目標	・国家検定「建築大工」(1級、2級)をのしぐ技能レベル ・幅広い素養と、「構造に強い大工」をめざす
●カリキュラム	・半年間の短期のため、科目は最低限で構成 ・「公開講座」(年数回)、「地域調査」(地域の伝統技術掘起し)等も
●技能評価試験(修了後)	・県知事認定による「信州伝統大工技能評価試験」(学科、実技)を実施 ・合格者には「信州伝統大工」(1級、2級)の称号
●受講実績	・2009年度: 基礎コース16名+入門講座13名=29名 ・2010年度: 応用コース14名

図3 「信州職人学校／伝統大工コース」の概要

引き続き、本年2011年6月からは、「基礎コース／第2期」を開始予定である。



3 「伝統大工コース」の構想

「信州職人学校／伝統大工コース」の概要を、図3に示す。

- 1) 学校名称：先輩格の「金沢職人大学校」(1996年開校)を参考に、「信州職人学校」とした。当面は大工を対象とした「伝統大工コース」を設けるが、将来は、大工以外の職種も視野に入れる。
- 2) 運営財源：組合で独自に財源を確保していることから、認定訓練校等の補助を受けない無制度の学校(フリースクール)とした。この財源は、1993年から「(財)長野県建設技能振興基金」に積み立てていたが、2005年、基金が解散したことから、「長野県建設産業団体連合会」が引継ぎ、積立金の範囲内で10年をメドに毎年助成されるものである。
- 3) 対象：「中堅大工」とし、開設コースは、経験に応じ、「基礎(2級)コース」と「応用(1級)コース」を設ける。入校資格は、国家技能検定「建築大工」(1級、2級)と同等以上の経験年数とした(図5)。
- 4) 期間：日常仕事を持つ「中堅大工」を対象としていることから、毎週土曜、半年間(毎年6月～11月)とした。実際には、さらに時間が欲しいところだが、受講生・組合とも負担が大きくなることから、「基礎コース」→「応用コース」→「修了後のフォロー」のステップアップ方式でカバーすることとした。
- 5) めざす育成像：「信州の伝統を未来につなぐ、新たな時代の大工棟梁」をめざし、「構造に強い大工」、「伝統構法が施工できる実践的技能」、「信州の伝統建築や現代ニーズへの深い素養」、「施主・市民にプレゼンできる提案・企画力」、「新たな仕事領域の開拓能力」、「信頼できる総合的な管理・経営能力」、「設計者や山側と協働できる能力」等の育成目標を掲げた。技能レベルは、国家技能検定「建築大工」(1級、2級)をしのぐレベルをめざす(図4)。
- 6) 「信州伝統大工」資格：各コース修了者には、県知事認定による独自の「信州伝統大工技能評価

大区分	小区分	科目	基礎コース	応用コース
1. 行事等	開講関連	開講式 ガイダンス	1 1	1 1
	研修旅行関連	旅行事前学習 研修旅行1(地域調査) 研修旅行2 旅行まとめ、発表	1 下記 2	1 15 2
	修了関連	総評 受験心得 修了式 祝賀会	1 1 1 1	1 1 1 1
2. 特別授業	公開講座 地域調査 OJT報告	公開講座 地域調査(自主調査) OJT報告・相互討議	14 10 1	14 9 1
3. 専門学科	設計製図	木造製図実習 木造設計実習	6	6
	構法	木造材料 木造材料・構造実験 木造構法力学 木造構造計画	4 6	2 6
	施工法	木造の施工法と施工管理 伝統木造の施工法と管理 木割と規矩術 木造の修理・再生法	2 2	2 2
	生産	木造積算 木造の生産と経営	6	4
	模試	2級学科模試 1級学科模試	2	2
	加工法	基本道具づくり 応用道具づくり 基本工作実習 応用工作実習	5 9	2 9
	規矩術	基本規矩術実習 応用規矩術実習	13	9
4. 専門実技	施工実習	木造施工実習 伝統構法実習	22	19
	実技試験練習	2級実技試験練習 1級実技試験練習	9	9
		総計	120	120

図7 カリキュラム(基礎、応用コース)
(2009年当初企画案、単位：コマ数、その後一部変更)

伝統大工(応用)コース 2010年度年間授業計画

月/日	回	行事	I 限 9:00~10:30	II 限 10:40~12:10	III 限 13:00~14:30	IV 限 14:40~16:10	V 限 16:20~17:20
6/5(土)	1	開講式	開講式・ガイダンス	公開講座8	応用道具づくり1		
6/12(土)	2		木造構造計画1	木造構造計画2			
6/19(土)	3		応用規矩術実習1	応用規矩術実習2			
6/26(土)	4		木造構造計画3	木造構造計画4			
7/3(土)	5		応用規矩術実習3	応用規矩術実習4			
7/10(土)	6		木造設計1	応用規矩術実習5			
7/17(土)	7	OJT報告	調査事前学習	木造設計2			
7/18(日)	8		調査研修旅行(1泊2日)				
7/19(月)	9	海の日					
7/24(土)	10	材料・構造実験1(講義)		公開講座9			
7/31(土)	11	伝統建築研究1		伝統建築研究2			
8/7(土)	12	材料・構造実験2(試験体製作)		材料・構造実験3(試験体製作)			
8/21(土)	13	応用工作実習1		応用工作実習2			
8/28(土)	14	材料・構造実験4(実験)		材料・構造実験5(実験)			
9/4(土)	15	応用工作実習3		応用工作実習4			
9/11(土)	16	応用工作実習5		伝統構法実習1			
9/18(土)	17	伝統構法実習2		伝統構法実習3			
9/25(土)	18	伝統構法実習4		伝統構法実習5(仮組、建て方準備)			
10/2(土)	19	木造生産・経営1		公開講座10			
10/9(土)	20	伝統構法実習6(地盤、建て方)		伝統構法実習7(建て方)			
10/16(土)	21	伝統構法実習8(屋根、他)		伝統構法実習9(上模式)			
10/16(土)	22	木造生産・経営2		1級実技試験練習1			
10/23(土)	23	木造生産・経営3		1級実技試験練習2			
10/30(土)	24	1級学科模試・補講		1級実技試験練習3	片づけ		
11/6(土)	25	修了式	総評	公開講座11	修了式	受験心得	祝賀会
11/13(土)			1・2級技能評価試験(学科)	受験準備			
11/20(土)			2級技能評価試験(実技)				
11/21(日)			1級技能評価試験(実技)				
11/29(日)			「信州伝統大工」1・2級合格発表				

図8 実施日程の例(2010応用コース)

試験」(学科、実技)を課し、合格者には「信州伝統大工」(1級、2級)の称号が与えられ、将来への活躍の素地が形成できる。

7) カリキュラム：半年間の短期のため、科目は最低限としたが、特色として「公開講座」(年数回、組合員や市民にも開放)、「地域調査」(地域の伝統技術の掘り起し)等の独自科目も設定した(図7、図8)。

8) 会場：実技は、県立訓練校の「松本技術専門校」の全面協力により施設を借用し(2009年度：実習室、2010年度からは体育館)、座学は、同校ほか「建設労連」の会議室を使用している(図9)。

4 2009～2010年度の授業の様子

1) コースの実施

募集開始にあたり、2009年3月、構想の発表と事前PRを兼ねて「第1回信州伝統大工セミナー」を開催した。地元新聞や住宅専門紙に報道され、大きな関心を集めた。

2009年度基礎コースは、定員枠15名を上回る28名の応募があり、本科16名+入門講座(実技なし)13名=29名で実施した。授業は、2009年6月～11月の半年間、毎週土曜、午前/座学、午後/実技の日程で実施した。

2010年度応用コースは、基礎コースを修了した本科14名で、2010年6月～11月の半年間、同様に実施した。

授業は試行錯誤の連続だが、一部の訓練の様子を図10に示す。

2) 座学

座学では、「木造製図・設計」、「木造材料・実験」、「木造構造力学・構造計画」、「木造施工計画・施工管理」、「木造積算・木造生産」、「OJT報告会」等の最低限の科目を設けたが、時間制約から科目種類が少ない上に、コマ数も圧倒的に少なく、基礎素養や知識の補強をいかに図るかが大きな課題である。

特に、構造面の能力向上には、構造力学から実際の木造構造計画(架構計画、伏せ図、構造計算等)まで体系的授業が必要だが、時間確保が難しい。



▲実技：県立松本技術専門校



▲座学：建労会館

図9 訓練会場(松本市内)



▲構造力学(基礎)



▲OJT報告会(応用)



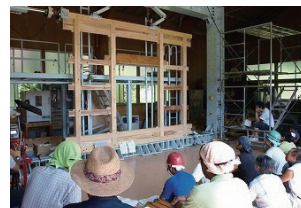
▲道具づくり(応用)



▲工作実習(応用)



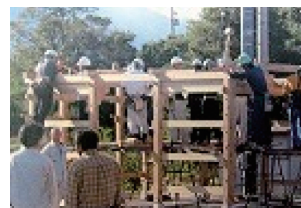
▲規矩術実習(応用)



▲構造実験(応用)



▲建築施工実習(2009基礎コース、車庫の建設)



▲建築施工実習(2010応用コース、山中に東屋建設)



▲地域研修旅行(左：2009南木曾、右：2010白川郷・高山)



図10 訓練風景(2009基礎、2010応用コース)

その一環として、2009年度、「壁フレームの縮小模型実験」、2010年度「筋交いフレームと通し貫フレームの実大比較実験」を実施し、目で実感できる実験として多大な効果があった。

その他、地域の伝統技術を掘り起こすために、「地域調査」、「伝統建築研究」等を設け、「本棟造りの調査」、「民家の改修・再生方法」等の学習を行った。

ふだん講義できない点を補うために、年数回、「公開講座」を行っており、これらは受講生に大きな刺激機会と視野の拡大に効果があった。

3) 実技

実技では、「道具づくり」、「工作実習」、「規矩術実習」、「施工実習」等の科目を各コースに設け、それなりの効果を上げている。

現在、住宅現場では、経験年数や国家技能検定「建築大工」合格の有無にかかわらず、手工具で刻んだり、木組みだけの「伝統木構法」の施工経験が非常に少ないだけに、道具使いを含め、基礎技能や応用技能の面で貴重な訓練機会となっている。

実習の総まとめとして、実際の建物建設を行う「施工実習」を設定している。2009年は、新伝統構法による「車庫又は倉庫」を組合会館敷地に建設した。

2010年は、諏訪大社上社の裏山の城趾跡に、地元森林組合の協力（木材、敷地の提供）を得て、独自考案の「東屋」を建設した。山中の木材を事前伐採・天然乾燥したものを使用した他、丸太足場は当日小径木を伐採してそのまま使うなど、野性味あふれ、中堅大工が腕を試す格好の機会となった。

4) 地域研修旅行

見聞を拡大するために、「地域研修旅行」(1泊2日)を各コースで実施した。2009年は南木曽方面を、2010年は白川郷・高山方面を訪れた。各地に残る伝統構法建物、製材工場、古寺や地域民家の改修現場等を見学し、見聞を拡大すると共に親睦を深めた。

5) 公開講座

特別授業として、年数回、「公開講座」を実施した。この公開講座は、毎回趣向が異なるが、県内外の著名講師（大工棟梁、職人、設計者、実務家、研究者等）を招き、講演、展示、実演、実験等、方法を問

信州職人学校・公開講座の開催実績（2009～2010年度）

回数・開催日	講座内容(テーマ、講師)
第1回 2009年6月6日	金沢職人大学校と金沢城復元工事 —金沢の建築文化継承に向けた「ひとつづつ」ものづくり— 河村 松一氏 (石川県建築組合連合会会長、石川県建築工事協同組合会長)
第2回 2009年7月11日	信州の風土と建築の歴史から学ぶ —伝統的な民家建築に生かされた職人の知恵と技— 吉澤 政己氏 (NPO法人 信州伝統的建造物保存技術研究会 副理事長) 和田 勝氏 (NPO法人 信州伝統的建造物保存技術研究会 副理事長)
第3回 2009年8月1日	民家再生と職人の技 講演1 —民家再生に何を学ぶか— 降幡 廣信氏 (降幡建築設計事務所 所長) 講演2 —民家再生工事の現場から— 宮澤 郁夫氏 (大工棟梁、信州職人学校講師)
第4回 2009年8月29日	伝統構法の架構学と模型実験 第1部/講演 —伝統構法の架構学原理— 増田 一真氏 (増田建築構造事務所代表、NPO伝統木構造の会会長) 第2部/実験 —伝統構法フレームの簡易構造実験—
第5回 2009年10月3日	伝統構法の現代への展開 フル講演 —伝統構法見直しへの動き— 秋山 恒夫氏 (職業能力開発総合大学校元教授、信州職人学校コーディネーター) 基調講演 —伝統木造の耐震化と耐震性能検証— 木内 修氏 (熊本県建築設計事務所代表、NPO伝統木構造の会理事) 構造模型と構法解説1 —信州の伝統的民家— 宮澤 郁夫氏 (大工棟梁、信州職人学校講師) 構造模型と構法解説2 —新伝統構法による現代住宅— 三浦 保男氏 (第三浦創建代表、信州職人学校講師)
第6回 2009年11月7日	大工一代 師匠の心弟子に伝える 白井 宏氏 (熊井井大工代表、富山県建築組合連合会会長)
第7回 2010年1月20日	第5回公開講座と同内容
第8回 2010年6月5日	伝統的な職人技術の継承と活用 土本 俊和氏 (信州大学工学部建築学科教授)
第9回 2010年7月24日	宮大工 直井光男棟梁による講演と大工道具の実演 直井 光男氏 (建築直井代表、宮大工)
第10回 2010年10月2日	和風建築を極める —数寄屋の伝統と聚楽壁の実演— 第1部/講演 —数寄屋の伝統が今日の「和風」・その形と技と心— 中村 昌生氏 (京都芸工芸大学名誉教授、京都伝統建築技術協会理事長) 第2部/実演 —聚楽壁(京壁)の実演— 杉森 義信氏 (京左官研究所 所長)
第11回 2010年11月6日	伝統を守り、時代が求める技を磨く 横田 栄一氏 (栄建具工芸代表、全国伝統建築技術保存会会長)

図11 2009～2010年度の「公開講座」内容(計11回)



▲第4回公開講座「伝統構法の架構学と模型実験」(2009/8)
増田 一真 (増田建築構造事務所、NPO伝統木構造の会会長)



▲第9回公開講座「宮大工直井棟梁の講演と大工道具の実演」(2010/7)
直井 光男 (宮大工、建築直井)



▲第10回公開講座「数寄屋の伝統と聚楽壁の実演」(2010/10) 中村昌生
(財)京都伝統建築技術協会理事長、杉森義信 (京左官研究所)

図12 公開講座の実施例(2009～2010)

わず、既に11回開催した(図11、図12)。

この中には、今後触れる機会がない貴重な講座も多いことから、何らかの記録と公開を考えている。

6) 技能評価試験

6ヶ月の訓練を経て、修了後、県知事認定の独自の「信州伝統大工技能評価試験」(学科、実技)を、各コースで実施した(図13、図14)。

試験課題は、県独自のものであることから、国家検定「建築大工」との違いを要請され、委員会で鋭意検討した。その結果、学科試験は授業に出ていれば比較的容易だが、実技試験は時間内に仕上げるには相当難しい内容となっている。

結果は、2級受験21名/合格7名、1級受験14名/合格4名、合格率3割前後という難しさであった。

5 「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」

1) 公募事業の概要

この事業は、2010年度より「国土交通省・林野庁連携プロジェクト」(事務局：(社)木を活かす建築推進協議会内)として始められ、2010年8月募集締め切り、9月採択結果が発表された。

背景には、①木造建築物の設計・施工に必要な技術やノウハウが充分普及していないこと、②大工就業者が減少し高齢化が急速に進行している中で、長らく技能者の確保・育成のための体制ができていないこと、③我が国の人工林は、現在伐採可能な充実期を迎えているが、地域材の利用拡大が図られていないこと、等がある。

そのため、本事業は、我が国の木造建築の設計・施工に必要な技術向上に資する取り組みのモデルケースとして、それらに通じた人材の育成・確保に向けた事業を募集し、高い志と目標を掲げた先駆的活動を選定し、補助的に支援を行う、とある。

応募提案は、①先導性・モデル性、②実現可能性、③持続可能性、が重視された。全国から29件の応募があり、審査の結果、10拠点が採択された。

なお、この事業は、今年度の成果を踏まえ、次年度以降も継続が検討される予定になっている。

	信州伝統大工 2級	信州伝統大工 1級
学科試験	・時間:1時間40分 ・問題数:50問 (真偽式25問、択一式25問) ・合格点:70点以上	
実技試験	・時間:6時間 ・合格点:70点以上(減点方式) ・平成21・22年度課題: 	・時間:7時間 ・合格点:70点以上(減点方式) ・平成22年度課題: 
試験結果 (過去実績)	・受験者:21名 ・合格者:7名(合格率 33.3%)	・受験者:14名 ・合格者:4名(合格率 28.6%)

図13 「信州伝統大工技能評価試験」の課題(2級、1級)

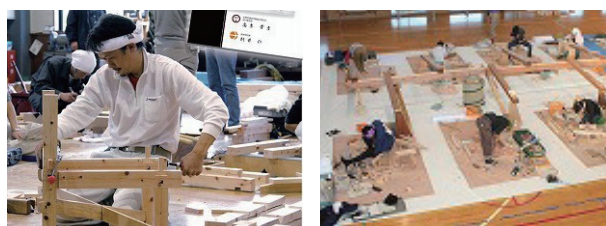


図14 実技試験の練習と試験風景

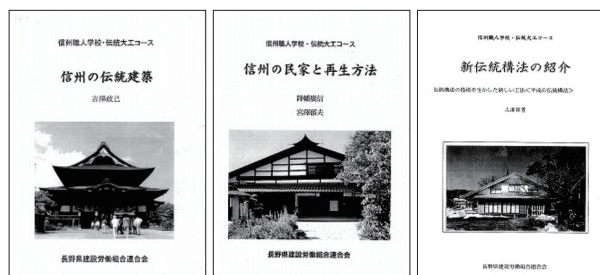


図15 教材テキストの作成(3冊)



図16 公開講座DVDの作成(2講座分)



図17 セミナーの開催(第2回信州伝統大工セミナー、2011/2)

2) 信州職人学校の拠点事業

当組合ではこの事業に応募し、その一つに選ばれた。2010年度に行った取り組みを、以下に記す。

①教材テキストの作成

本校独自の育成目標にあったテキスト類が少ないため、現在試行中のプリント類を独自のテキストとしてまとめた。将来的には、5年間で15冊程度を目標とするが、今年度は以下の3冊を作成した(図15)。

- ・『信州の伝統建築の歴史と構法』 吉澤政己
(NPO 信州伝統的建築物保存技術研究会)
- ・『信州の民家と再生方法』 降旗廣信
(株)降旗建築設計事務所、宮澤郁夫(宮澤建築)
- ・『新伝統構法の紹介』 三浦保男((有)三浦創建)

②公開講座DVDの作成

公開講座の開催記録のライブラリー化をめざし、今年度は、以下2回分をDVD化した(図16)。

- ・第10回公開講座「和風建築を極める一寄屋の伝統と聚楽壁の実演」 中村昌生((社)京都伝統建築技術協会)、杉森義信(京左官研究所)
- ・第11回公開講座「伝統を守り時代が求める技を極める」 横田栄一(栄建具工芸、全国伝統建具技術保存会)

③セミナーの開催

2011年度「基礎コース」2期生の受講生募集と信州職人学校の社会PRを兼ね、2011年2月、「第2回信州伝統大工養成セミナー」を開催した(図17)。

著名な宮大工棟梁・西澤政男氏(滋賀県彦根市、(株)西澤工務店 代表)と、木造設計者・加来照彦氏(現代計画研究所、育成拠点アドバイザー)を招き、講演と今後課題を語り合うシンポを実施し、約90名の多数の参加で盛り上がった。

④技能イベントへの参加(学校紹介パネルの作成)

「ものづくり体験フェア2010」(松本市、2010/11)に参加し、ものづくり体験コーナーを企画する一方、信州職人学校の紹介パネル(6枚製作)と、技能評価試験の実技課題を出品展示し、好評を博した(図18、図19)。

⑤ホームページの作成

社会への発信力を強化し、受講生の募集、伝統技



図18 学校紹介パネルの作成(大型、計6枚)



図19 技能イベントへの参加と出品(ものづくり体験フェア2010、松本市内、2010/11)



図20 信州職人学校ホームページの作成

能を生かした家づくり、新たな学校モデルの全国発信等に供するため、ホームページを開設した(図20)。

⑥「信州建築職人ネットワーク委員会」の準備

伝統技能継承事業を次段階へと進めるために、次年度、上記委員会の設置を予定しており、今年度はその準備を進めた。

この委員会は、この春、初の「信州伝統大工1級」の称号者が社会に出ることから、修了生の活躍場の拡大をめざすことを直接の目的とするが、修了後の継続的学習のフォロー、受講生の継続的募集、工務店の相互連携の促進、新たな地域住宅ネットの構築、市民への普及活動の展開、等の幅広い課題の本格討議を予定している(図22)。

そのため、委員会の編成は、上流から下流まで幅広い関係者に参加協力を仰ぎ、可能なところから行動を開始予定である(図21)。

修了後は、多様な分野への活躍場の開拓がこの委員会の大きな課題である(図23)。

3) その他の育成拠点事業と成果発表会

この担い手育成拠点事業では、全国から10拠点が選ばれ、2010年度末までに各事業が実施された。

選ばれた10拠点は、主催側によれば、「伝統型技能に基づいた大工育成に取り組むグループ」、「大学や大学院の木造・木材教育の充実に取り組むグループ」、「山と木造をつなぐ新たな仕組みに取り組むグループ」、「木材加工のプロの育成に取り組むグループ」、「インテリアの世界を木造に広げるグループ」など、様々な試みに分けられる(図24)。

2010年12月の中間発表会を経て、2011年3月11日、全国の拠点が参集し、成果発表会が開催された。

この中で注目される試みとして、大学間連携による大学の「木造教育」の改革、川上と川下を結ぶ新たな職能としての「木材コーディネータ」の創出、「木造建築士」の活用、等の意欲的試みが発表され、刺激的議論を行った。奇しくも発表会の最中、「東日本大震災」が勃発し、大きく揺れるビルと膨大な帰宅難民が発生する中での発表会となった(図25)。

川上—川下を結ぶ主要関係者の参加(10~15名で構成)

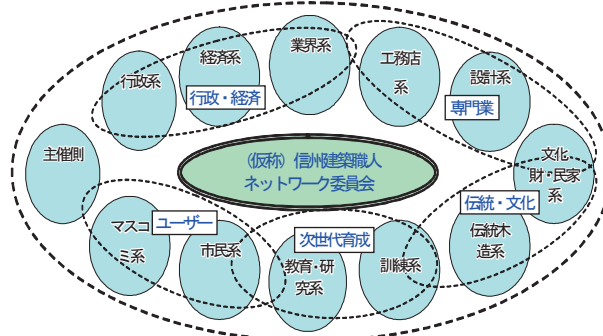


図21 「信州建築職人ネットワーク委員会」の編成イメージ

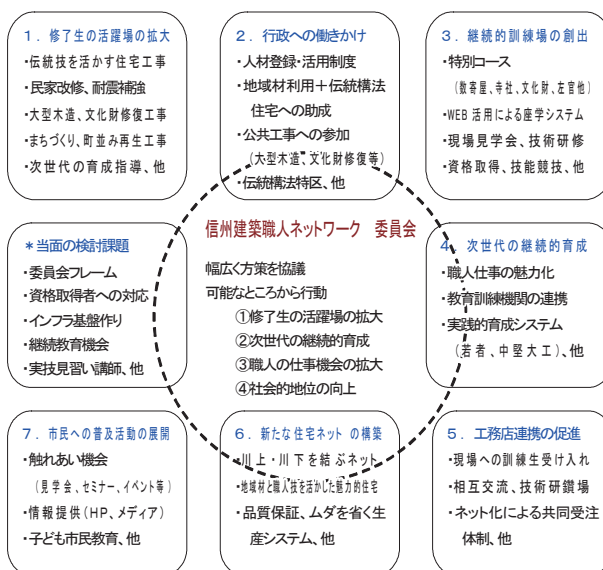


図22 委員会の検討課題のイメージ(当面～中長期)

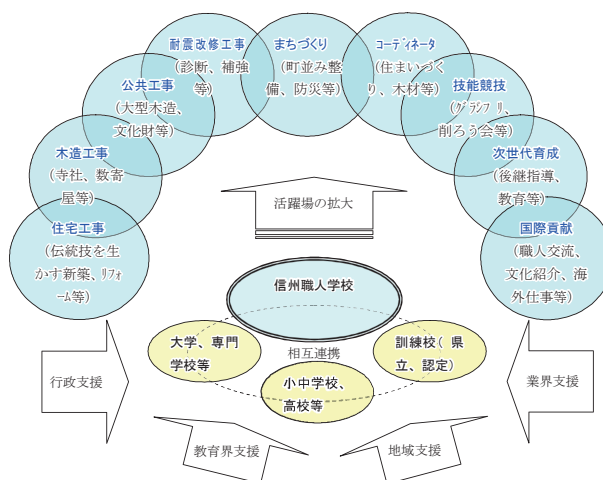


図23 修了後の多様な活躍分野のイメージ

6 おわりに

本事業は、受講生の継続的参加と関係者の支援なしに成り立たない上、修了後の活躍場の拡大や仕事ネットの構築が今後の大きな課題である。運営面では、財源の確保、指導・運営体制の強化、訓練コースの拡充など、課題は山積みである。

全国的に若手大工の育成場は多いが、中堅大工対象の訓練場は少なく、全国から大きく注目されている。着実に成果を上げ、全国に新たな育成モデルを発信して行きたい。

その他、国の担い手育成拠点事業では、明治以来の大学等の「木造教育」を問い直す大学間連携や、森林振興に向けた「木材コーディネータ」の育成等の試みが始まっており、今後の動きが注目される所である。



▲大地震の最中に行われた発表会



▲大学グループの発表



▲大地震発生後の深夜の新宿駅周辺

図25 事業成果発表会の様子(2011/3/11)

〈参考文献〉

- 1)「信州職人学校」ホームページ(長野県建設労働組合連合会)
- 2)「信州職人学校」関連報道記事(信濃毎日新聞2009/3/6、3/28、
新建ハウジング2009/4/10、2011/2/28、市民タイムス2009/6/07、
日本住宅新聞2009/6/15他)
- 3)「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」ホームページ
(社)木を活かす建築推進協議会)
- 4)「木のまち・木のいえ担い手育成拠点プロジェクト」
(『住宅と木材』2011/4号、(財)日本住宅・木材技術センター)

グループ	団体名	事業名	特徴
A	1 長野県建設労働組合連合会	信州職人学校 伝統大工コース(信州伝統建築技能継承事業)	独自基金を組み合わせ運営、明確な人材像、能力評価制度を確立
	2 (社)高知県中小建築業協会	土佐流棟梁指南堂	3年間の大工見習コース、その後5年間を現場で育成する土佐流棟梁コース、母体組織が大工雇用、木造建築士の取得、習熟度を図る評価指標
	3 大工塾ネットワーク「協同組合主人の会」	「大工塾」+「木造設計塾」+「主人の会」	実績ある大工塾、新たな木造設計塾、OBの主人の会を組み合わせ、完成度の高い座学と実習
B	4 NPO サウンドウッズ	森から木造建築まで地域産木材流通をコーディネートする人材育成事業	木材流通の川上と川下を木材コーディネーターがつなぐ仕組み、地域材の利用促進、公共や企業施設を確保、具体的カリキュラム構成や提案先
	5 愛媛県林業振興会議	木材利用高度技術者育成拠点整備事業	建築系及び木材加工技術者を育成、母体組織と愛媛県と愛媛大大学院、高知大等との連携、大学院リカレントコース、産地単価を含むスキル表を用いて育成
	6 広島インテリア協議会	木造先進都市ひろしまを創る木造建築士の育成	インテリアコーディネーターに、木造建築士の受験資格を県知事許可により付与
	7 木造住宅デザイン研究会 ユア・ホーム	プレカット工場を拠点とする担い手育成と木造軸組住宅架組能力検定の実施	プレカット検定、建築基準法レベルの4級から、プレカットマイスターの1級までレベル設定、検定試験で能力評価
C	8 東京大学 農学生命科学研究科 生物材料科学専攻	木材の流通・加工・利用システムに係る人材育成とその拠点形成	川上と川下をつなぐ建築学と林学にまたがる木材利用システム学、研究者・実務家を育成、新規カリキュラム、人材像、教育研究体系
	9 (社)日本木材学会	「木のまち・木のいえづくり」を目指す若者のための教育プログラムの構築	学会が母体、木材供給地の秋田県立大と大分大を中心に大学連携、木造・木材技術者を育成、実習に重点、科目認定・単位互換、教材開発、指導者育成
	10 工学院大学+東京都市大学	実習型木造建築学	木造離脱車を中心、他大学にも呼び掛け首都圏大学が連携してプログラム実践、正規科目授業、特定テーマ・カリキュラム、実習施設、実行体制を確保

図24 2010「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」/10拠点のリスト